

## 知能特性に応じた指導法が学習意欲に与える影響 大学生の英語学習に対する多重知能理論適応の可能性

### The Effects of the Method of Multiple Intelligences Theory on the Motivation of Japanese Learners of English

恒安 眞佐 (宇都宮大学) 阿久津 仁史 (聖学院大学)  
鈴木 政浩 (西武文理大学)

#### 1. 問題と目的

大学全入時代を迎え、大学教育をめぐる状況は大きく変化している。その変化の一例として、大学生の学習意欲の減退や学力低下があげられる(大学英語教育学会授業学研究委員会, 2007:10-11)。変化に対する対応として、授業への主体的参加を保障するために、学生のニーズを重視すべきであるという指摘がある(日本私立大学連盟編, 1999:98)。しかし、日本の大学における授業の多くは、学生ひとりひとりに目が向けられているとは言い難い(子安, 2001: 46)という見解もあり、大学の授業は個々の学生の潜在能力を十分に引き出し切れていない可能性もあるだろう。そのため、教員が為すべき仕事は学生の多様な知能を活発にするために可能な限り様々な指導法を取り入れることだ(Christison, 1997: 3)。という主張は注目に値する。

こうした迷走する日本の大学教育を取り巻く状況を打開する方策の1つとして、Gardner (1983) の主張する Multiple Intelligences Theory (多重知能理論、以下 MI 理論)がある。Gardner (1999) によれば、人間には、従来の学習において最優先されてきた言語・論理的知能を含め、少なくとも8種類の知能があるとされている。そして、多様な学生の能力や可能性を十分に伸ばすためには、より多くの知能に焦点を当てた授業づくりが必要であるという。本研究では知能特性に応じた指導法が大学生の英語学習意欲に影響を及ぼすかどうか、そして、その影響の具体例は何かを検証し、大学生の英語学習に対するMI理論適応の可能性を模索することを目的とする。

#### 2. 研究1

##### 2.1 方法

実施期間と対象者:2008年11月~12月で、関東近県の私立大学生44名を対象とした。  
手順: (1) 知能特性を測定する質問紙調査、(2) 学習態度を測定する質問紙調査(事前調査)、(3) 知能特性にもとづく授業実践3回(90分のうち前半の45分を使って実施)、(4) 事前調査と同じ学習態度を測定する質問紙調査(事後調査)の順で実施した。

##### 2.2. 結果

知能特定に関する質問紙の結果は、音楽的知能に関する活動を好む学生が圧倒的に多く、次に空間的知能に関する活動に対して興味を示す学生が多かった。そこで、事

前調査と事後調査の平均値を対応のある t 検定を用いて分析した。その結果、いくつかの質問項目において、平均値に有意差が見出された（表 1）。

表 1. 事前調査と事後調査の平均値に有意な差が認められた質問項目

この授業ではきちんとノートをとった	.32†	この授業が好きだ	.42*
この授業はおもしろい	.48*	がんばって参加しようと思った	.42**
この授業を通じて達成感を得られた	.39*	もっと英語を学びたいと思った	.29*

( ) 内は平均値の差 †:p<0.10, \*:p<0.05, \*\*:p<0.01

### 2.3 考察

学生の知能特性を把握することで、学習活動に対する好み把握しやすくなったため、取り組みやすい授業展開が可能になったと考えられる。一方、授業が音楽的知能・空間的知能を重視していたため、それ以外の知能特性を持つ学生には取り組みにくかったようで、事後調査の平均値に顕著な変化が見られない学生も存在した。また、実験群と統制群を設けて指導を行ったわけではないため、指導法の違いによる差以外の要因が存在する可能性も課題として残った。

## 3. 研究 2

### 3.1 方法

実施期間と対象者：2009 年 5 月から 6 月で、関東近県の大学生を対象とする。

手順：実験群には研究 1 と同様の手順で授業を実施し、統制群には通常の授業（90 分）を実施する。また、実験の前後で、両群に対して知能特性に関する調査を行う。授業回数は実験群・統制群ともに 3 回実施する。分析の方法は、まず両群に対して、事前調査の平均値に差がないかを検証する（t 検定）。そして、両群の事前調査と事後調査の平均値の差に違いがあるかを検証する。

研究 2 に関する結果と考察は当日報告する。

### 引用文献

- Christison, M.A. (1997). "An Introduction to Multiple Intelligences Theory and Second Language Learning." In J. Reid (Ed.) *Understanding Learning Styles in the Second Language Classroom*. Prentice-Hall.
- 大学英語教育学会授業学研究委員会編著. (2007). 「高等教育における英語授業の研究 授業実践事例と中心に」松柏社.
- Gardner, H. (1983). *Frames of mind: The theory of multiple intelligences*. New York: Basic books. Gardner, H. (1999). *Intelligence reframed: Multiple intelligences for the 21st century*. New York: Basic Books.
- 子安増生(2001). 「多重知能理論からみた近年の教育改革批判」『京都大学大学院教育学研究科紀要』47, 28-50 .
- 日本私立大学連盟編(1999). 「大学の教育・授業を考える 2 大学の教育・授業の変革と創造 教育から学習へ」東海大学出版会.